

補助金等評価調書 平成28年度行政評価（シート1）

所管部課名	協働推進部	産業観光課	作成日	平成28年7月29日	No.	7	
作成責任者(課長)氏名	児玉 真一	作成者氏名	井上 ひとえ	電話	226		
補助金等名	農業まつり補助金						
開始時期	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 8 年 月 <input type="checkbox"/> 不詳						
実施根拠	法令等の名称						
補助区分	<input checked="" type="checkbox"/> 定額補助 <input type="checkbox"/> 定率補助 <input type="checkbox"/> その他 (説明)⇒						
補助金等の概要	対象: (交付先)	農業まつり委員会					
	補助内容: (補助基準等)	委員会が農業まつりを開催するために要する経費のうち、会場設営及び宣伝に係る費用を補助する。(年額1,090,000円を上限とする。)					
	意図: (目的、趣旨)	市内における農業生産物を広く市民に紹介し、農業の活性化を推進する。					
	実施結果: (具体的成果) ※27年度実績	来場者数 4,910人 イベント参加者数 1,300人					
他市等の状況	26市中本市を含めた7市(立川市、小平市、国立市、東久留米市、東大和市、あきる野市)が同様の補助を実施している。						
【評価指標】	指標名		単位	説明・計算式			
活動指標	①						
	②						
成果指標	①	イベント参加人数	人	球根の無料配布等のイベント参加人数			
	②	来場者数	人	二日間の来場者数			
費用・成果の推移	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	備 考			
交付金額(千円)	1,065	1,090	1,090				
うち一般財源	1,065	1,090	1,090				
所要人員(人)	0.02	0.02	0.02				
総コスト(千円)	1,236	1,259	1,259				
活動指標	①						
	②						
成果指標	①	1,950 人	1,300 人	2,000 人			
	②	6,550 人	4,910 人	7,000 人			
【交付団体等の決算・予算の状況等】 ※特定団体に交付の場合のみ記載							
単位:千円	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	平成27年度の補助金の使途			
収入総額(千円)	2,898	2,941	1,090	交付金額(千円)	1,090		
収入内訳	市補助金	1,065	1,090	1,090	使途内訳	設営委託費	1,188
	会費	334	334				
	繰越金	0	0				
	事業収入	11	42				
	その他	1,488	1,475				
支出総額(千円)	2,898	2,941	0				
支出内訳	食糧費、交際費	0	0		各種割合		
	人件費	0	0		団体収入に占める補助金の割合	37%	
	事業経費	2,898	2,941		団体収入に占める繰越金の割合	0%	
	その他	0	0		交付金額に対する繰越金の割合	0%	
過去の評価経過	協議会・委員会の意見要旨	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金等検討協議会(平成20年度) <input type="checkbox"/> 行政評価委員会(平成 年度) 農業まつりは、農家と市民の交流の場として良い機会となっている。 平成19年度から市民まつりとの同時、同会場開催をされており、来場者も多く農業振興策の一環として大いに寄与している。 今後も社会経済情勢等の変化に対応しつつ、補助を継続されたい。					
	見直し等の状況	当初は、全体の事業費を補助の対象としていたが、平成27年度より、補助対象経費を会場設営及び宣伝に係る経費に限定した。					

評価項目	評価	確認項目（※○・×のどちらにも該当しない場合は、「－」を選択。）
次 評 価	公益性	○ ① 市民からのニーズが大きい。
		○ ② 補助事業に類したサービスを提供可能な機関や団体が他にない。
		○ ③ 被交付者だけではなく、一般市民にも間接的な受益がある。
	効率性	○ ① 補助金の内容や補助額等について、過去5年以内に見直しを行っている。
		× ② 補助額、実施手法等について、過去に他市等との比較を行った。
		× ③ 補助期間(終期)を設定している、又は設定の予定がある。
		(○の場合)⇒終期 平成 年 月
		○ ④ 必要最小限の補助であり、縮減や所得制限導入の余地はない。
		○ ⑤ 補助額、補助率等の算定根拠を説明できる。
	(○の場合)⇒算定根拠 (説明) 総事業における設営委託及び宣伝に係る費用を対象としている。	
	有効性	○ ① 補助基準が明確である。
		× ② 補助金の成果について、具体的な数値目標等を設定している。
		(○の場合)⇒目標内容 (説明)
	適格性	○ ③ 補助金の交付により、期待された効果が得られた。
		○ ① 繰越額が補助金額を上回っていない。
○ ② 補助金に依存することなく、被交付者が自主財源の確保に努めている。		
(○の場合)⇒取組内容 (説明) 参加者1人当たり2,000円の会費を納付		
○ ③ 決算書だけではなく、帳簿や領収書等で使途の確認ができる。		
その他	－ ④ 市税の滞納がないなど、被交付者が市民としての責務を果たしている。	
	○ ⑤ 交際費、慶弔費、飲食費、懇親会費の経費に補助金を充てていない。	
	○ ① 補助の目的、内容及び実施時期に緊急性又は優先度の高さが認められる。	
	(○の場合)⇒その理由 (説明) 市民へ農業についての理解促進を図ることにより、農地保全につながる。	
	× ② 成果向上のため、被交付者自らが活動内容の検証、改善等を行っている。	
	(○の場合)⇒改善内容等 (説明)	
× ③ 補助金に、市民との協働や市民の主体的な取組を促進する作用がある。		
○ ④ 迂回助成(被交付団体から他団体への、補助金を原資とした助成)は行われていない。		
【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) ※「×」とした項目に言及しながら、所管課としての意見を具体的に記載ください。 農業まつりは、市民に市内産農産物をPRする唯一のイベントである。 Foodグランプリと同時に開催されるようになってからは、多くの市民にとって市内産農産物が身近なものとなり、地産地消の推進につながっている。 このことから、農業まつりを支援することは、農業振興にとって非常に有益であり、農業生産の拡大にもつながるものであるため、本補助金については、今後も継続して交付していく必要がある。 なお、平成27年度の行政評価において、農業関係の補助金について見直しを行うべき旨の意見が出ているため、来年度策定する農業振興計画策定時に合わせて見直ししていく。		
二 次 評 価	【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) 本補助金は、本市の農業振興に寄与するものであり、また、市内で生産された農産物を一堂に集めて展示販売を行うとともに、農産物をPRする機会を確保するものであるため、今後も継続することが適当である。 なお、農業関係補助金が多岐にわたっている現状を踏まえ、農業振興計画策定時に全体の整理合理化を進めていくことが肝要である。	
行 政 評 価 委 員 会 意 見	農業まつりは、市内産農産物をPRする貴重な機会であり、市民の農業に対する理解を深める上で重要なイベントである。 また、Food(風土)グランプリ及び農産物品評会との同時開催により、来場者数が増加するなどの相乗効果生まれ、効果的に実施することができたため、今後も継続して補助することが適当である。 他方、市内農業従事者の高齢化や農家の後継者不足等を理由として、市内の農地面積は減少傾向にあり、都市型農業である本市の農業を安定的に維持していくためには、課題があるといえる。 よって、今後は、本補助金を交付することだけでなくとどまらず、農地面積の維持や農産物の販路拡大につながる方策について、総合的に検討していくことを求めたい。	